授業科目　精神保健福祉援助実習

【担当教員名】	対象学年	4	対象学科	社会（精神保健福祉コース必修）
近藤　あゆみ、松本　京介	開講時期	前期	必修選択	選択
	単位数	6	時間数	270（うち現場実習 180 時間）

【ディプロマポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

【概要・一般目標：GIO】

精神障害者のおかれている現状やその生活実態等について理解すること、精神保健福祉援助に係る実践的な技術を体得すること、地域生活支援における連携について実践的に理解することなどを通して、精神保健福祉士として総合的に対応できる能力を修得する。

【学習目標・行動目標：SBO】

１．精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践することができる。

２．精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状、その生活実態や生活上の課題について述べることができる。

３．精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等を身につけ総合的に対応できる。

４．総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容について述べ実践することができる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題備考・担当教員
	１．精神科病院または精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習指導者による指導を受ける。 １）治療中の患者及びその家族への相談援助 ２）退院、地域移行・地域支援、社会生活上の問題等に関する、患者及びその家族への相談援助 ３）関係機関との連携を通じた援助	1-4	
	２．地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の指導者による指導を受ける。 １）利用者やその関係者との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ２）利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ３）利用者やその関係者との支援関係の形成 ４）利用者やその関係者への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む）とその評価 ５）精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ６）精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 ７）機関職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ８）機関の経営やサービスの管理運営の実際 ９）実習先が地域社会の中の機関であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解	1-4	

【使用図書】	＜書名＞　＜著者名＞　＜発行所＞　＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）	
参考書	
その他の資料	適宜配布する

【評価方法】

実習ノート、実習先での評価等を総合的に評価する。

【履修上の留意点】

この授業は、原則として精神保健福祉士の資格取得を目指す学生を対象とする。